

1. バッタンバン州で百人超がH I V 感染、注射器原因か

カンボジア西部バタンバン州の3つの村で村人の大規模なエイズウイルス(HIV)感染が発覚した。17 日時点でHIV陽性と診断されたのは 106 人に上っており、さらに増える恐れがある。同国のエイズ対策当局によると、注射針や注射器の使い回しが原因の可能性があるといる。11 月下旬に村の老人2人の感染が確認され、検査を受ける人が相次いだ。この2人を含む 895 人がこれまでに検査を受け、計 106 人が陽性、うち 25 人は 15 歳未満だった。村で医療行為を行っていた男性の行方が分からなくなっており、地元当局が捜している。カンボジアの地方の農村では医師不足のため無資格で医療行為に従事する人々が多いという。

2. 新たな最低賃金、大半の労働者が満足

2015 年に向けて新たに発表された最低賃金に関して、11/16、労働組合が集まって話し合いを行い、いくつかの組合はこれ以上デモ行為を行わないことを決めた。労務省の Ith Sam Heng 氏は、先週、2015 年のカンボジア縫製業における最低賃金を 128ドルで決定したと発表。これは現在の 100ドルから 28ドルの賃上げとなり、施行は 1 月 1 日からとなる。Collective Union of Movement of Workers の加入者の間では、およそ 90%があたらしい賃金に満足しているようだ。しかし Free Trade Union の代表である Chea Mony 氏は、「私達のグループは、引き続き抗議活動を行っていきます。大半の労働者は怒っています。2014 年の間にでも、130ドルから 140ドルの最低賃金が実現することを望んでいましたから」と話す。

3. シニアリティ・ボーナスをめぐるストライキ

11/17、およそ 600 人の労働者が昨日ストライキを行った。工場がシニアリティ・ボーナスの支払いを拒んだ事が発端だ。プノンペンにある Chuen Leu 縫製工場(Huey Chuen 工場から改名)の労働者達は、労務省と国会議会までデモ行進を行って、政府に仲介に入ってくれるよう請願書を提出した。カンボジアの労務法では、工場が名前を変更したときは、シニアリティ・ボーナスを労務省に支払わなくてはならない、という決まりがある。「私達は政府のサポートを得るため、これまで国会へは 4 回、労務省へは 9 回出向きました」と、同社労働者代表の Long Panha さんは話す。彼らはおおよそ 4 ヶ月ストライキの状態にある。「政府は、サポートする、と言ってくれましたがそれだけです」と付け加えた。工場の経営陣からのコメントはまだない。また、Committee for the Settlement of Strikes and Demonstrations に勤める Vong Sovann 氏は、「労務省の Ith Sam Heng 氏が、いまこの問題をどう扱うか吟味しているところです」と話した。

4. 月受け取り給料は、「225～250ドル」—GMAC の発言

Garment Manufacturers Association in Cambodia (GMAC)は声明をだして、「新たな最低賃金設定のもとでは、労働者たちは最大で 250ドルを月に稼ぐことが可能になった」、と発表した。新たな賃金月額 128ドルは、1 月 1 日から施行予定だ。「実際に労働者が手にするのは、最低賃金だけでなく、様々な手当を合計した金額です。2015 年の 1 月から、縫製業労働者が家に持ち帰れる金額は、月に 225ドル～250ドル程度になるはずですよ」。こういった内容の声明が GMAC のフェイスブックページに投稿された。GMAC は、月に 10ドルの皆勤手当や、7ドルの食費・交通費、また、残業手当やシニアリティ・ボーナスなども計算に含めている。これに対して、「この数値は誇張である」、と述べる声もある。来年、労働者が月々手にする金額は、最低でも 135ドルになると予想する人権団体 Solidarity Center の Dave Wesh 氏は、「月に 225ドルから 250ドルというのは、言い過ぎでしょう」と話す。

5. Chim Li 工場のストライキで道路が一時通行止めに

11/24、国道 4 号線が 2 時間もの間、プノンペン Por Sen Chey 地区の縫製工場で働くおよそ 1000 人の労働者達によって妨害された。ストライキが行われた Chim Li 縫製工場で働く 39 歳の Do Sopha さんによると、朝 10 時から始まったストライキでは、解雇された労働者の復職と、1 日 4000 リエル (1ドル)の食事代の支給が求められた。道路の通行状態が正常になったのは、労務省の職員と工場の経営者が、労働者の代表団と面会することが確約された午後 12 時頃だ。工場からのコメントはまだない。

6. Juhui 工場のストライキで、解雇された労働者たちは別工場へ転職

Kompong Cham 州にある Juhui 靴工場で働いていた 700 人～800 人の労働者たちは、ついに復職を諦めて別の工場を探すことに決めたようだ。一方で、どうしたらいいのかわからず工場からの何らかの解決策の提示を未だに待っている

者たちもいる。Coalition of Cambodian Apparel Workers' Democratic Union (C.CAWDU)の法務職員である Buth Bunchhean 氏は、「ストライキに参加した労働者たちの大半は解雇されてしまいました。これでストライキも終わりです。もうこれ以上、労働者達も待ってられないでしょう。だからこそ、もう次の仕事を探し始めているのです。およそ 300 人が、同工場での仕事を諦めきれずにいますが、彼らもうこれ以上ストライキをしようなどとは考えていません。いまはただ、C.CAWDA を通して工場と交渉し再雇用してほしだけです」と話す。

数ヶ月前、C.CAWDU はおよそ 5000 人の労働者にストライキを行わせたが、結局彼らの要求が満たされることはなかった。5000 人のうち約 3000 人が早々と仕事に戻り、残ったおよそ 2000 人は、後々工場から解雇されることとなった。22 歳の Sorth Kunthea さんも以前ここで働いていたひとりで、彼女も現在仕事を探している最中だとして、「これ以上待っていることはできません。私には、家族を養うためのお金が必要なのです」と話した。また、35 歳の Pheng Hong さんも求職中だが、自分が男なのでなかなか雇ってもらえないと嘆き、「いくつか工場を見つけましたが、男性の労働者はあまり望まれていないみたいです。ストライキに参加する人の大部分は、男ですからね」と話す。

7. シェムリアップ空港スタッフ、ストライキをやめる

11/25、シェムリアップ国際空港に勤めるおよそ 150 人が、Cambodia Airport Management Services (CAMS)と労働組合の間で協約が結ばれたことによって、ストライキをやめた。Cambodia Tourism Industry Worker Trade Union に所属する活動家の Bun Sim さんは、「シェムリアップ州の会議所で、CAMS と交渉を行いました。結果ある程度の成果を得ることができたので、とりあえず、ストライキを中断、延期することに決めました」、と話す。Cambodia Tourism Industry Worker Trade Union は、今回労働者達に対してストライキを提案した団体である。CAMS は、ストライキに参加していた労働者達の給料をカットしないこと、また、近々労働者達が求めていた労働条件の改善要求も、近々交渉の場を持って解決の方向へ進むという約束をした。国際空港とシェムリアップ国際空港を運営している会社、Cambodia Airports のコミュニケーション・ディレクターである Norinda Khek 氏は、「これからも話し合いを重ねていこうと思っています」と話をした。

8. 殺された大物ビジネスマン



大物ビジネスマンとして名が通った Shimmex グループの会長 Meng Cheu 氏は、11/29の夜7時15分、シハヌーク通りオリムピックスタジアム側の果物店で自家用車のレクサスから降りたところを、6 発の銃弾を受けて殺害された。防犯カメラにその一部始終がとらえられており、1 発の銃弾を受けた後、命乞いする光景が映されていた。目撃者の話では、バイクで近寄ってきた 2 人の男性が特に Meng Cheu さんから物を盗ろうとすることもなく、すぐに銃の引き金を引いた。プノンペン裁判所の調査官 Keo Mony 氏は、「カンボジアで実力者とも言われる Meng Cheu さんですが、最近では別の大物ビジネスマン Chheang Paksour さんとの仕事面での諍いがあり、今月 8

日は裁判所に出廷するはずでした」と話した。また、匿名を希望した別の裁判所職員は、「Paksour さんは、プノンペン Sen Sok 地区内のおよそ数千ドルの価値がある 10 ヘクタールの土地をめぐって、Meng Cheu さんを裁判所に訴えていました。Meng Cheu さんは、他にも何件か訴えられたことがあるようです」と話す。

9. マレーシアのワ・セオン、電力供給サービスを受注

マレーシアで石油・ガス関連サービスなどを手掛けるワ・セオン・コープは、カンボジアのバイオマス発電所建設プロジェクトで電力供給サービスを受注した。1時間当たり最大3500キロワットの電力を供給する。契約期間は20年で、両社が合意すれば延長できる。PMTIエナジー・カンボジアはまた、コメのみ殻を利用するバイオマス発電所(発電能力毎時1万キロワット)をバタンバンに建設することについて、当局から認可を取得した。

以上